

藤沢市内の海に近い小学校の校庭に、ひときわ大きな鳥が静かにたたずんでいました。写真の鳥は、日本最大級のサギ類であるアオサギです。青みを帯びた灰色の羽色から「青鷺」の名が付けられましたが、古く日本語では灰色や緑色も含めて「青」と表現することがあり、その名は体色をよく表しています。長い首と脚、鋭い黄色い嘴をもち、水辺では魚やカエル、ザリガニなどを巧みに捕らえる優れたハンターとして知られています。

アオサギは河川や池、干潟だけでなく、海岸近くの草地や公園、学校の校庭などにも姿を現します。この個体も、子どもたちのいない人工芝の上で、しばらく身動きせず周囲を見渡していました。一見すると休息しているようにも見えますが、実際には昆虫や小型のカエル、ネズミなどの動きを鋭い視力で探していたのかもしれない。じっと静止し、獲物が近づく瞬間を待つのは、アオサギならではの狩りの方法です。

人が多く集まる学校も、授業が終われば野生動物にとっては一時的に静かな環境となります。人工的な風景の中にたたずむアオサギの姿は、一見すると少し不思議な光景ですが、都市の自然が私たちの身近に息づいていることを教えてくれます。普段は何気なく見過ごしてしまう校庭も、視点を変えれば野鳥たちの生活の舞台となっており、人と自然が同じ空間を共有していることを改めて感じさせてくれる一枚です。

(2026年6月下旬／神奈川県藤沢市)

